

2013年度 立教SFR 国際会議助成成果報告書 (A, B, C)

1. 会議概要

会 議 名	和文	第9回国際類像性シンポジウム		
	欧文	9th International Symposium on Iconicity in Language and Literature		
主 催	異文化コミュニケーション研究科			
共 催	異文化コミュニケーション学部			
後 援	「言語と人間」研究会 (HLC: Human Linguistics Circle)			
開催責任者	所属	異文化コミュニケーション研究科		
	氏名	平賀正子		印
運営事務局	事務担当者	異文化コミュニケーション研究科		
	氏名	中谷 一		
開催期間	2013年 5月 3日から 2013年 5月 5日まで			
開催場所	立教大学池袋キャンパス			
参加者数※1	学内	4名		
	学外 国内から招聘	6名		
	海外から招聘	6名	5カ国	合計 16名 6カ国
公開講演会等 参加者数※2	①	2013年 5月 3日	79名	20カ国
	②	年 月 日	名	カ国
開催日程		午前	午後	夜
	第1日 5月3日	基調講演 研究発表 翻訳ワークショップ	翻訳ワークショップ 研究発表 手話パネル	特別企画：東日本震災ドキュメンタリー上映と公開講演
	第2日 5月4日	基調講演 研究発表	研究発表	懇親会
	第3日 5月5日	基調講演 研究発表 音象徴パネル	研究発表 音象徴パネル 総括パネル	
開催経費総額	予算額	3,154,550円	執行額	3,231千円

※ 1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※ 2 一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。参加者名簿を添付すること。

2. 開催趣旨概要

国際類像性シンポジウムは、1997年から2年に一度のペースで開催され、今回で9回目の開催を数える。本シンポジウムは、近代記号学の父とされるF. de ソシュールによって確立された記号の恣意性への批判として、その有縁性について、特に類像性（記号（形式）と対象（内容）の間に類似に基づく関係性がみられること）に焦点を絞り、理論・応用の両側面からなされた研究成果を共有し合い、21世紀的な文脈における新たな展開を模索するものである。

アジアで初の開催となる本大会では、“East meets West”というテーマをかかげ、基調講演に加えて、「翻訳ワークショップ」、「音象徴パネル」、「特別企画：東日本震災ドキュメンタリー上映と公開講演」を企画し、類像性研究の深化と共に、言語、記号、文学に関連する人文科学系の複数の学術分野の進展に寄与することを目指した。

3. 国際会議の成果概要・今後の展望等

基調講演者には、Winfried NÖTH（サンパウロ・カトリック大学教授）、Anne FREADMAN（メルボルン大学名誉教授）、大堀壽夫（東京大学准教授）を招聘した。現代の記号学を代表する碩学の一人、ネート教授の講演は、広範におよぶ類像性研究を整理し、それを新たなパラダイムのもとに再構築することを試みた画期的な講演だった。フリードマン教授は、日記というジャンルのテキストにおける類像性（および指標性）の役割について具体的な事例をもとに考察し、記号学の研究者のみならず、文学、比較文学の研究者へ大きな示唆を与えた。大堀教授の講演は、言語の進化における類像性の役割を問うという野心的な内容で、類像性研究の新局面を開拓する可能性を示した。

「翻訳ワークショップ」では、類像性に富む未翻訳の文学テキスト（英語）を題材として選び、ワークショップ参加者による数カ国語（日本語、オランダ語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語、ポーランド語、スロベキア語など）への翻訳を試み、形式と意味との緊密な関係性が「翻訳」というプロセスでどのように保持されるか、あるいは崩れてしまうのかを検証した。

日本語の特徴の一つとされる擬態語・擬音語をとりあげた「音象徴パネル」では、すでに培われている日本語研究をさらに発展させるとともに、諸言語との比較を試み、言語記号の普遍性と個別性について議論を行った。「特別企画：東日本震災ドキュメンタリー上映と公開講演」では、東日本大震災の現場をろう者という視点からドキュメンタリーとして映像化した作品を上映し、手話の類像性についての討議と同時に、映画制作者による講演および聴衆によるディスカッションを行った。研究発表では、異なる文化的背景を持つテキストの類像性分析に基づく比較研究が数多く発表されるとともに、手話や漢字など視覚メディアと類像性との関係性に焦点化した研究、擬態語・擬声語に関する実験的、理論的研究など、領域横断的で多彩な研究成果が発表され、討議が行われた。

なお、本シンポジウムの成果は、Iconicity in Language and Literature シリーズの一書として、John Benjamins 社（アムステルダム）より、論文集というかたちで刊行される予定である（2015年刊行予定）。本シンポジウムの成果が書籍化されることにより、言語を含む記号の類像性に関する研究がさらに深化することが見込まれる。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏名	所属・職名	会議における活動	内 訳
平賀正子	異文化コミュニケーション研究科・教授	開催責任者、大会実行委員長、および総括パネル議長	異文化コミュニケーション 4名
中谷 一	異文化コミュニケーション研究科・准教授	大会実行副委員長、事務局責任者、および講演コメンテーター	計 4名
武田珂代子	異文化コミュニケーション研究科・教授	翻訳ワークショップパネリスト	
坪井睦子	異文化コミュニケーション研究科・特任准教授	翻訳ワークショップパネリスト	
変更内容 (氏名、不参加/追加の別) なし。			

(2) 学外参加者 (国内、国外)

氏名	国名・所属・職名	会議における活動	内 訳
Anne Freadman	オーストラリア・メルボルン大学・名誉教授	基調講演	日本 6名
Winfried Nöth	ブラジル・サンパウロ・カトリック大学・教授	基調講演	オランダ 2名
大堀壽夫	日本・東京大学・准教授	基調講演	オーストラリア 1名
Olga Fischer	オランダ・アムステルダム大学教授	国際シンポジウム総括企画者	ブラジル 1名
Imogen Cohen	オランダ・アムステルダム大学教授	翻訳ワークショップ企画者	ポーランド 1名
Elzbieta Tabakowska	ポーランド・クラコフ Jagielloński 大学教授	翻訳ワークショップ企画者	スイス 1名
Christina Ljungberg	スイス・チューリッヒ大学教授	国際シンポジウム総括企画者	計 6カ国 12名
William Herlofsky	日本・名古屋学院大学教授	総括パネリスト	
今村彩子	日本・名古屋学院大学兼任講師・映画制作者	手話パネル企画者・特別企画コメンテーター	
篠原和子	日本・東京農工大学教授	特別企画震災ドキュメンタリー制作者および講演講師	
秋田喜美	日本・大阪大学専任講師	音象徴パネル企画者	
井上加寿子	日本・関西国際大学助教	音象徴パネリスト	
		パネル・コメンテーター	
上記は招聘者			
変更内容 (氏名、不参加/追加の別) なし。			